



純綿自給に五月幟の利用

綿布の國內自給策に資する
ため、二丁目青年は古綿回収
献納運動を開始、既報の如く
相當の成績を挙げ、漸次全市的
な運動化せんとしつつあるが
綿布自給運動として更に五月
幟の廢止と占領利用を提唱す
る。

五月の節句については遺囑
ながら流儀にして多くを知ら
ないが、萬葉の節句を尙武と
モチツて勇壯な吹き流しや幟
を立てるやうな習慣に成つた
ものではあるまいか？
男の節句は全国的に幟と吹
き流しを立てることを慣習と
し、田舎へ行くことが多いこと
を以つて自慢とし、或は古きこ
ろを誇りとしてゐるやうである
ために男児出生毎に幟は漸次
累加されて商家などは長持か
ら溢れる程何百本も保存して
ゐるやうである。

綿布幟に換はされ、あら
ゆる廢物が利用されつゝある
とき不用な純綿布を長持の奥
に保存して置くことは國家的
見地から不經濟であると見
る。

幟に使用する純綿は最も強
靱なものである間、凡て
綿布で染られて居るが染返す
ことに依つて色々な用途が待
つてゐる、或る人の計算に依
ると全國に保存されてゐる五
月幟は全國で二、三ヶ年自給
する程大量の純綿に相當す
るからと語つてゐた。農家は
殊に綿布配給難に悩まされて
ゐる時であるから、何れも長
持の底をはたき、古い幟を染
色して利用されるやう切に希
む。

野澤武藏

新文具御案内

マルトモ書店入荷品
書方自習用白塗板
定價 四拾錢

先童用として理想的な書方自習
白塗板が出現致しました。御使
用は極く簡單で、書いたあとを
ぬれ布巾でふいて拭けばよい、
何百回でも練習出来ます。
本器の特色
一、文字がハッキリ描け
二、筆勢がよくわかりま
三、立てて書いても墨が
垂れません
三、紙の大節約になりま
す。

これ一枚あればどんな習字嫌
いで書方の下手な人でも見る
上達致します
國家に添ふものとして文部省教
育局より非常の賞讃を頂いて居
ります

三井タクシー

平市二丁目
電六八五番

精神修養に...

喜多流 白土會
「人命階級」 平市川町六九

人絹とスフには

新製織物補強劑

一、織物繊維が防水されますから水や醬油、ソ
スが附かず浸が透しません
二、虫の付き易いセル、モスリン、毛織物に虫食
の心配がありません
三、明石、絹、紗の如き汗や水に縮み易い織物は
防縮が出来ます
四、人絹、スフ等の織物は補強されますから二、
三割強くなります
定價 三十錢 三反量

福島縣配給所

三井呉服店

平市三丁目 電話 二八四番

冷凍魚

日本水産特約(電三八三六)
卸小賣平製氷會社
尾箱ヶ平代理店 下平魚問屋
四丁目電五三〇

腸胃病 門專 院醫科 村松
花柳病科 泌尿器科 皮膚科 肛門科
性病科 腸胃病科
院醫科 腸胃病科
門專 院醫科 村松
（番七〇一電）町南市平

謹啓 誠操院の新盆に相當り候
處時局に鑑み乍勝手提灯其他の
供物等御贈與の儀固く御辭退申
じ上候
敬具
尙萬一御届け被下候とも乍失禮御受け致兼候
に付右不惡御諒承願上候
昭和十四年八月十五日
平市 四丁目

猪狩庄平

謹啓 嘆珠院新盆に相當り候處時局
柄佛前へ提灯其他御供物等の御贈與
の儀固く御辭退申上候
尙萬一御届け被下候とも乍失禮御受け致し兼
候に付不惡御諒承願上候
昭和十四年舊七月
平市 字南町 一二
酒井 保

謹啓 廉正院弘覺亮禪居士の新
盆に相當り候處時局に鑑み乍勝
手提灯其他の供物等御贈與の儀
固く御辭退申上候
尙萬一御届け被下候とも乍失禮御受け致兼候
に付右不惡御諒承願上候
昭和十四年八月十六日
四倉町 字本町

菅波茂

謹啓 清淳院弘道惠亮居士の新
盆に相當り候處時局に鑑み乍勝
手提灯其他の供物等御贈與の儀
固く御辭退申上候
尙萬一御届け被下候とも乍失禮御受け致兼候
に付右不惡御諒承願上候
昭和十四年八月十六日
四倉町 字仲田 八五
江口 勇

實想院の新盆に相當り候處時局に
鑑み乍勝手提灯其他の供物等御贈與
の儀固く御辭退申上候
尙萬一御届け被下候とも乍失禮御受け致兼候
に付右不惡御諒承願上候
昭和十四年八月十六日
平市 二丁目

根本善吉

謹啓 萬德院智豐性海芳香居士
の新盆に相當り候處時局に鑑み
乍勝手提灯其他の供物等御贈與
の儀固く御辭退申上候
尙萬一御届け被下候とも乍失禮御受け致兼候
に付右不惡御諒承願上候
昭和十四年八月十六日
四倉町 字仲田

植田萬治郎

謹啓 性善院の新盆に相當り候
處時局に鑑み乍勝手提灯其他の
供物等御贈與の儀固く御辭退申
じ上候
尙萬一御届け被下候とも乍失禮御受け致兼候
に付右不惡御諒承願上候
昭和十四年八月十六日
四倉町 字本町

小湊正

謹啓 良照院の新盆に相當り申候處
時局に鑑み乍勝手提灯其他の供物等
の御贈與の儀固く御辭退申上候
尙萬一御厚志御惠贈の思召にて御贈り之有候
とも右の次第御受け致兼候に付不惡御諒承
願上候
昭和十四年舊七月
平市 字鎌田町
草野七五三之助